

2013年11月

ノロウイルスに関する実態調査

ノロウイルスの感染経験 8人に1人、20代が最多 効果がやすい対策を過半数が有効だと認識

“身体の中から”の対策に約8割が期待

森永乳業は、乳由来のたんぱく質であるラクトフェリンに関する研究を実施し、2013年で50年目を迎えました。当社では現在、ラクトフェリンの感染防御作用、特にノロウイルス感染性胃腸炎に対する作用について研究を進めております。そこで本格的に流行する季節を前に、ノロウイルスに関する実態と予防の意識を明らかにするために、全国の20～70代の男女を対象に調査を行いました。

本調査を通じ、従来の対策法に加え、“身体の中から”の予防法が広く認知され、浸透することを願っております。

<調査結果>

- ①ノロウイルスに感染したことがある人 12.8%、20代が最も高く 24.5%P2
 - 家族が感染したことがある人は 15.6%
- ②最も多い感染経路は、自身「自分の子供」、家族「学校・職場」
学校で感染した子供から家族への二次感染が多い現状P3
 - 子供がいる人の感染経験は、いない人の約3倍
- ③完治するまでの期間は3～5日が約7割
感染者の7人に1人は「入院したことがある」という回答もP4
- ④予防法について高い関心も、「有効だと思う予防法」では、効果がやすい方法が過半数P5
 - 効果がやすい「アルコール消毒」が有効だと思っている人 54.0%
 - 予防を始める時期は4人に1人が「流行し出してから」
- ⑤予防策として食事に気をつけたことがある人は 29.6%
“身体の中から”の予防はこれからの期待P6
 - 食事で予防できる方法があれば対策をしたい人約8割

<調査概要>

- 調査主体 : 森永乳業株式会社
- 調査方法 : インターネットによるアンケート調査
- 調査期間 : 2013年10月5日(土)～6日(日)
- 調査回答者 : 全国の20歳～79歳の男性600名(うち子供あり162名)、20歳～79歳の女性600名(うち子供あり150名)

※ 各図の中の(SA)、(MA)、(n)はそれぞれ以下を表しています。

(SA):選択肢から1つを選択する回答形式 (MA):選択肢から複数の選択を可能にする回答形式 n(n):質問への回答者数

※ 数値については、小数点第1位までの掲載としています。

※回答結果はパーセント表示を行っており、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、各回答の合計が100%にならない場合があります。

<調査結果①>

ノロウイルスに感染したことがある人は 8 人に 1 人(12.8%)

年代別では 20 代が最も高く 24.5%

自身とその家族のノロウイルスの感染経験について尋ねたところ、自身が感染したことがある人は 12.8%と約 8 人に 1 人(図 1)、家族が感染したことがある人は 15.6%(図 2)でした。また年代別で見ると自身が感染したことがあるかという問いに対し、20 代と 30 代がそれぞれ 20%以上と、他の年代に比べて高い結果となりました(図 3)。

図 1 (SA, n=1200)

あなたは直近5年間でノロウイルスに感染したことがありますか

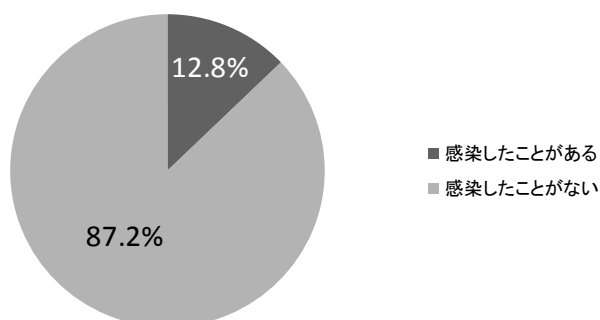


図 2 (SA, n=1200)

あなたの家族が直近5年間でノロウイルスに感染したことがありますか

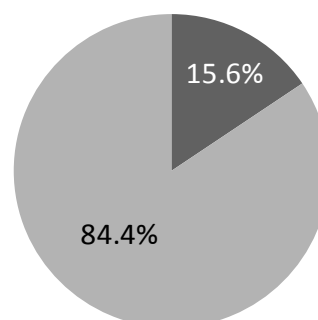
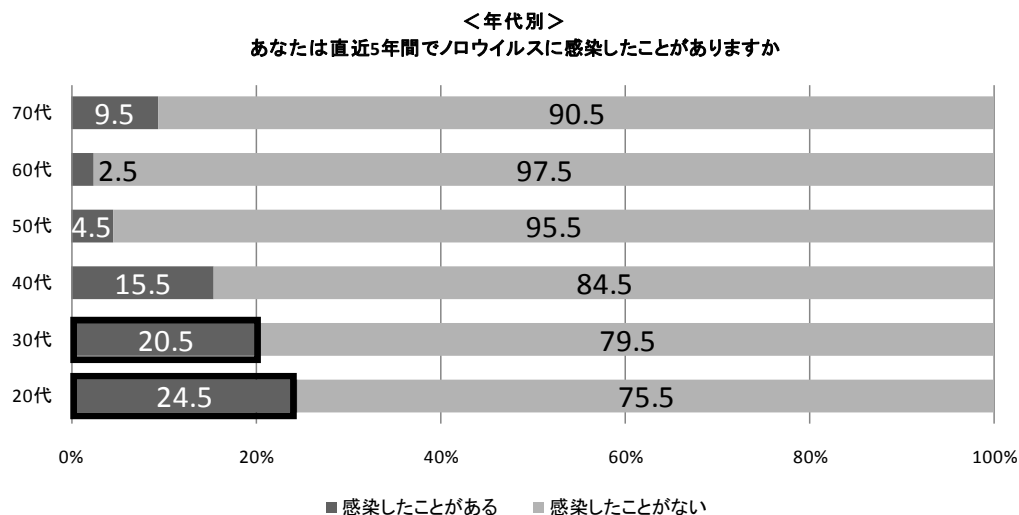


図 3 (SA, n=1200, 各年代 n=200)



松本 哲哉 主任教授のコメント(東京医科大学 微生物学講座 主任教授)

ノロウイルスの感染経験 12.8%という結果は、私達が思っているよりもノロウイルスが身近な感染症であり、誰が感染しても不思議ではないということを示しています。中でも 20-30 代のノロウイルス感染率が高い要因としては、集団での生活、小さい子供との接触、外食などが多く、ウイルスに接する機会が多いため、感染リスクが高まっていることが考えられます。ノロウイルスの予防法としては、年代問わず、ウイルスの体内侵入を防ぐことに加え、腸内環境を整え、免疫力を高めることが有効です。そのため、普段の食生活に気をつけ、お腹の調子を良好に保つことを心がけましょう。

<調査結果②>

最も多い感染経路は、自身「自分の子供」、家族「学校・職場」
学校で感染した子供から家族への二次感染が多い現状

自身もしくはその家族がノロウイルスに感染したことがある人を対象に、感染経路について尋ねたところ、自身は「自分の子供」(図 4)、家族では「学校・職場」(図 5)がそれぞれ最も多い結果となりました。この結果より、学校でノロウイルスに感染した子供からその家族に二次感染している実態が読み取れます。また子供がいる人の感染経験が、いない人の約 3 倍であるという結果も(図 6)、この実態を裏付けていることが伺えます。

図 4 (MA, n=154)

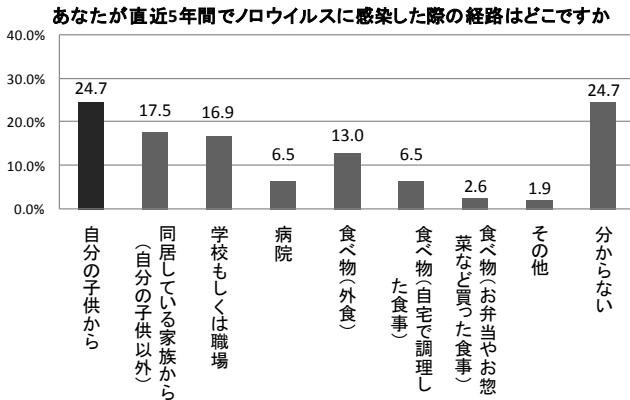


図 5 (MA, n=187)

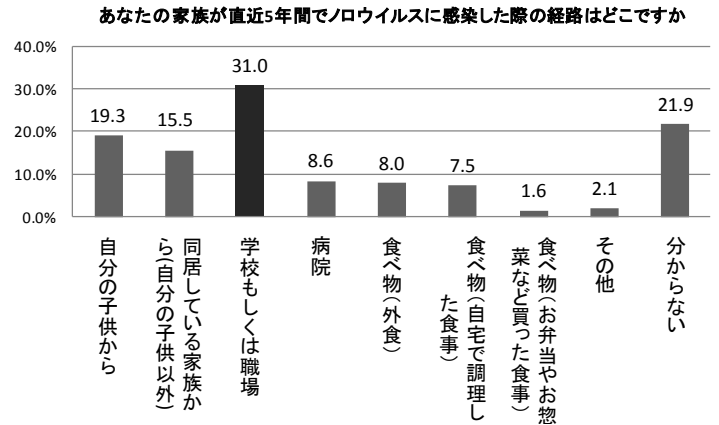
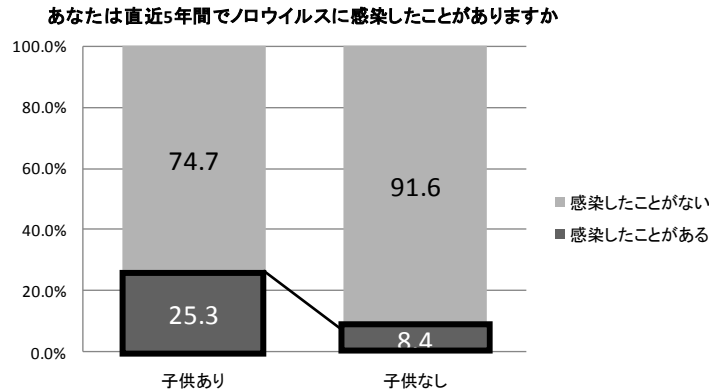
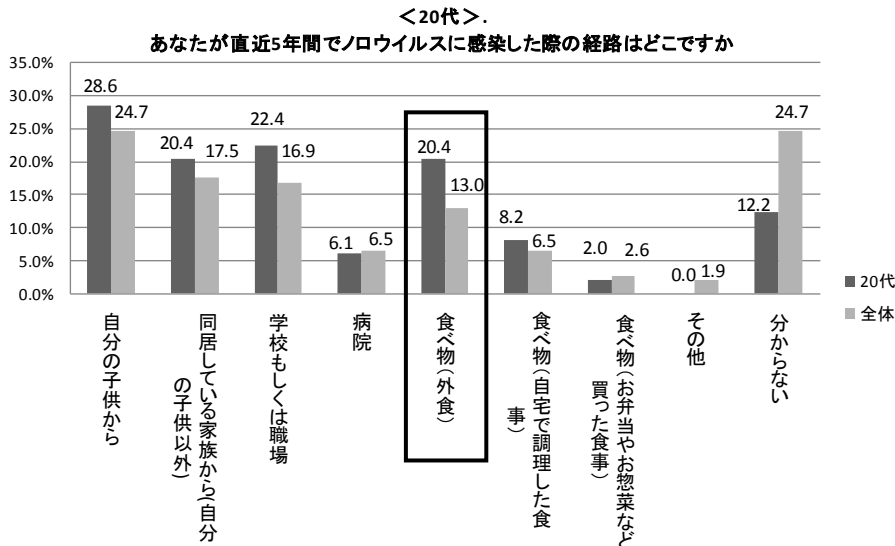


図 6 (SA, 子供あり n=312, 子供なし n=888)



さらに年代別に自身の感染経路を見ると、20代では、「食べ物(外食)」が20.4%と全体に比べて高い結果となりました(図 7)。外食での感染は、手洗いなど“身体の外から”の対策では防げないため、“身体の中から”の対策が重要となります。

図 7 (MA, 20代 n=49, 全体 n=154)



<調査結果③>

完治するまでの期間は3～5日が約7割

感染者の7人に1人は「入院したことがある」という回答も

自身もしくはその家族がノロウイルスに感染したことがある人を対象に、完治するまでの期間を尋ねたところ、3～5日が68.3%と高い結果となりました(図8)。また入院経験について尋ねたところ、14.3%の人が「入院したことがある」という結果となり(図9)、約7人に1人が重篤化する傾向にあることが明らかになりました。

図8 (MA, n=224)

あなた自身もしくはあなたの家族がノロウイルスに感染して完治するまでの期間はどれぐらいですか

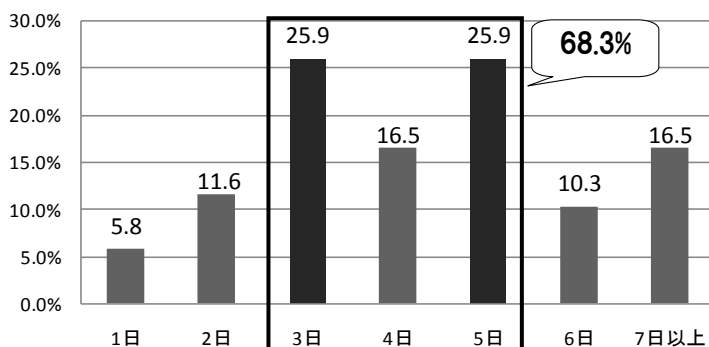
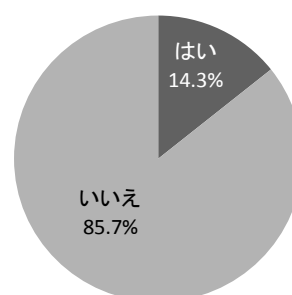


図9 (SA, n=224)

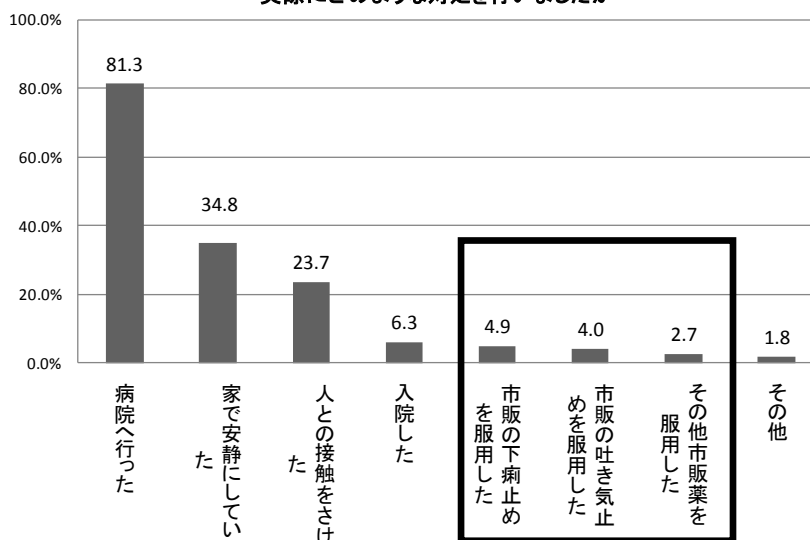
あなた自身もしくはあなたの家族が今までにノロウイルスに感染して入院したことがありますか



また感染した際、実際に行った対処法についても尋ねたところ、「病院へ行った」が81.3%と最も多く、次いで「家で安静にしていた」で34.8%という結果となりました。一方で、「市販の下痢止めを服用する」など誤った対策をしている人も、一定数いることが明らかになりました(図10)。

図10 (MA, n=224)

あなた自身もしくはあなたの家族がノロウイルスに感染した時、実際にどのような対処を行いましたか



※能動的な対処について回答いただいているため、図9と図10の入院経験の数値に差が出ております。

松本 哲哉 主任教授のコメント(東京医科大学 微生物学講座 主任教授)

ノロウイルスに感染した際は、体内のウイルスを排出することが重要です。そのため市販の薬、特に下痢止めを飲むことは、ウイルスの排出を阻害し、腸内にとどまる期間を長引かせるため、対処法としては誤っています。まずは、病院で診察を受け、人との接触を避け、十分な水分と電解質を摂り安静にすることが大事です。

<調査結果④>

**予防法について高い関心も、
「有効だと思う予防法」では効果がやすい方法が過半数**

ノロウイルスについて関心が高いことを尋ねたところ、「感染した時の対処法」が55.8%と最も高く、次いで「予防法」54.0%という結果となりました(図11)。また実際に、実施している予防法は「石鹼で手洗いする」「うがい」「食材を加熱処理する」などが多い結果に(図12)。一方で、有効だと思う予防法では、ノロウイルスに対して効果がやすい「アルコール消毒」が54.0%と「石鹼での手洗い」に次いで高い結果となりました(図13)。

図11 (MA, n=1200)

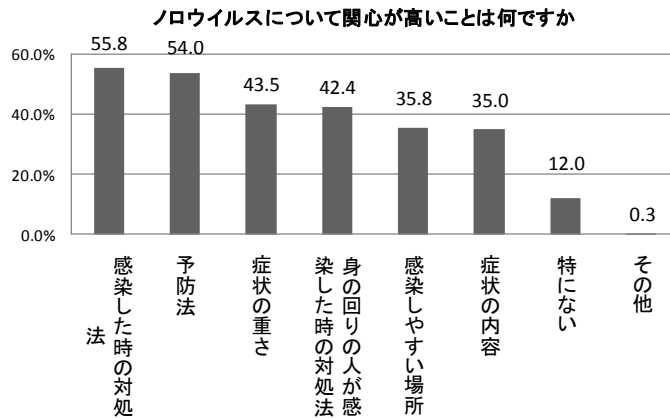


図12 (MA, n=1200)

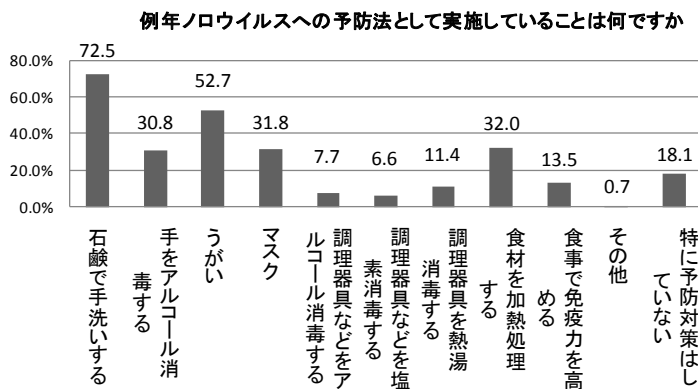
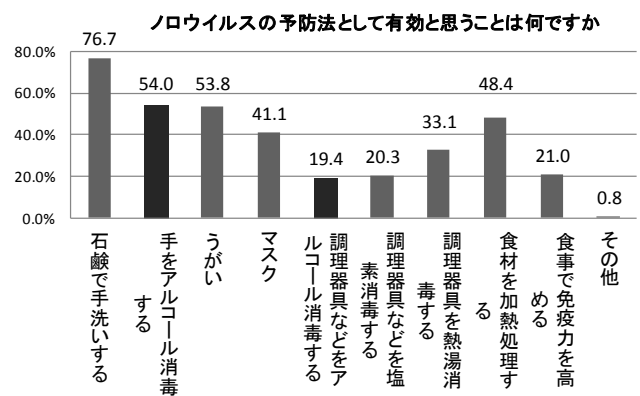


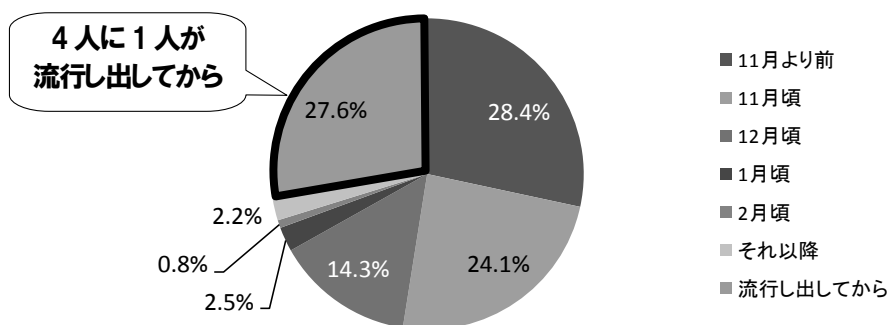
図13 (MA, n=1200)



さらに例年予防を実施している人を対象に、始める時期について尋ねたところ、4人に1人は「流行し出してから」という結果に(図14)。予防法には高い関心があるものの、効果がやすい方法を有効だと思っている人や、予防を始める時期が遅い人が多いことが明らかになりました。

図14 (SA, n=983)

ノロウイルス予防を始める時期はいつ頃からですか



<調査結果⑤>

予防策として食事に気をつけたことがある人は 29.6%

“身体の中から”の予防はこれからの期待

続いて、ノロウイルスの予防策として食事に気をつけたことがあるか尋ねたところ、「気をつけたことがある」と回答した人は29.6%と、低い結果となりました(図15)。前頁の調査結果④の通り、予防については関心が高く、「石鹸で手洗い」「うがい」など“身体の外から”の対策を実施している人は多いものの、“身体の中から”予防している人は少ないことが明らかになりました。一方で、食事でノロウイルスを予防出来る方法があれば実施したいと思うか尋ねたところ、79.1%と高い割合の人が「実施したい」という結果となりました(図16)。

図15 (SA, n=1200)

ノロウイルスの予防策として食事に気をつけたことがありますか

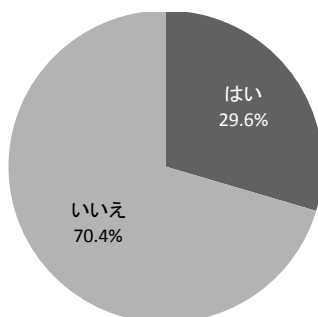
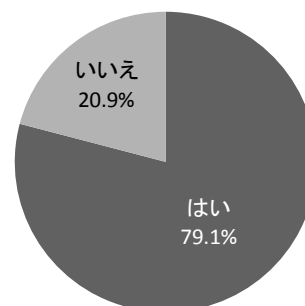


図16 (SA, n=1200)

食事でノロウイルスを予防出来る方法があれば実施したいと思いますか



また腸内環境を整えることがノロウイルス予防になることを知っているか尋ねたところ、「知っている」と回答した人は24.3%と低い結果となりました(図17)。ノロウイルスの予防に有効であると考えられている成分「ラクトフェリン」を知っているか尋ねたところ、「知っている」と回答した人はわずか22.6%でした(図18)。腸内環境を整えるなど身体の免疫力を高めると、ノロウイルスの予防に効果的だと言われています。中でもラクトフェリンは腸内で免疫力を高める作用に加え、ノロウイルスが細胞へ付着すること防ぎ、ウイルス自体の増殖も抑制するため、予防効果が見られるという事が調査から分かっています(調査に関する詳細は次ページ参照)。

図17 (SA, n=1200)

腸内環境を整えることがノロウイルスの予防になることを知っていますか

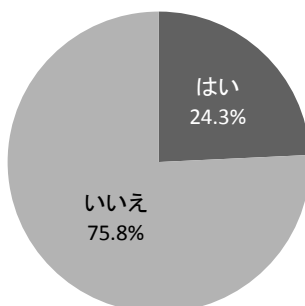
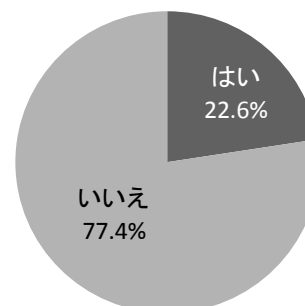


図18 (SA, n=1200)

ノロウイルスの感染抑制に有効な成分である「ラクトフェリン」を知っていますか



松本 哲哉 主任教授のコメント(東京医科大学 微生物学講座 主任教授)

手洗い・うがいなど体の外からウイルスが進入するのを防ぐのは重要なことですが、食べ物そのものがノロウイルスに汚染されている場合もありますので、完全に感染を防ぐことは不可能です。その一方で、ウイルスがいったん体の中に入っても感染を抑制できれば予防効果が期待できます。ラクトフェリンは、ノロウイルスだけでなく様々な病原体に対して抑制効果を示し、さらに人の免疫機能を高める効果も報告されています。ラクトフェリンによる感染予防効果のメカニズムはまだ明らかになっていませんが、実際にラクトフェリンの内服を続けることで、人においてもノロウイルスの発症をある程度、抑える効果があると考えられます。

<森永乳業調査データ>

■最新研究：ラクトフェリン摂取によるノロウイルス感染抑制

ノロウイルス感染性胃腸炎と思われる症状（腹痛、嘔気・嘔吐、下痢）で医師の診断を受けた人の割合は、100 mg/本のラクトフェリン含有食品の摂取頻度がほぼ毎日の人で、週1回程度の人と比較し有意に低いことが分かりました。（図1）また、医師から問診でノロウイルスの疑い、または検査でノロウイルス確定と診断された人の割合も、摂取頻度がほぼ毎日の人と週4-5回の人で、週1回程度の人と比較し有意に低いことが分かりました。（図2）以上の結果から、100mg/本のラクトフェリン含有食品を毎日継続的に摂取することで、ノロウイルス感染性胃腸炎の発症を抑制できる可能性が示されました。

図1.ノロウイルス感染性胃腸炎と思われる症状で医師の診断を受けた人の割合

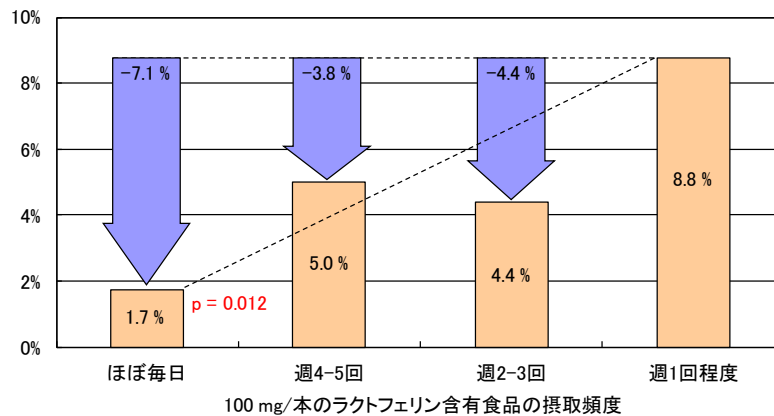
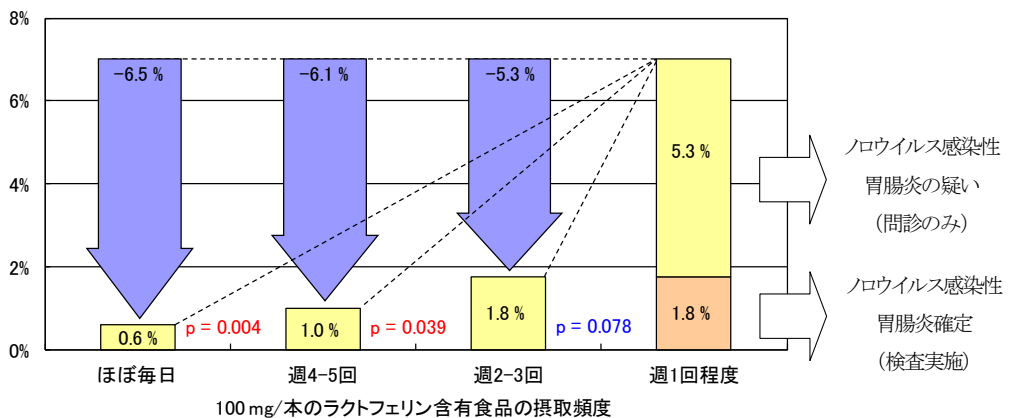


図2.医師からノロウイルス感染性胃腸炎の疑いまたは確定と診断された人の割合



■ラクトフェリンとは

ラクトフェリンは、人などの哺乳類の乳汁や唾液などに含まれるたんぱく質で、抗微生物活性や免疫調節作用など、さまざまな生理機能を示すことが知られています。中でも母乳、特に初乳に多く含まれており、抵抗力の弱い赤ちゃんを病原菌やウイルスなどの感染から守る重要な成分として考えられています。

ノロウイルスとの関係については、過去の臨床試験から、400mg/日のラクトフェリン摂取がノロウイルス感染性胃腸炎の発症率を低下させることが報告されています。そのメカニズムとして、各種ノロウイルスモデルを用いた研究から、ラクトフェリンがノロウイルスや消化管細胞と結合し、ノロウイルスの消化管細胞への感染を抑制すること（以下 URL 参照）、ラクトフェリンが感染した消化管細胞に I 型インターフェロン（抗ウイルス性サイトカイン）を誘導し、感染した消化管細胞におけるノロウイルスの複製を抑制することが示唆されています。

http://www.morinagamilk.co.jp/corporate/release/2012/0107_1350.html